


# 第47期 決算説明資料

(2012年4月1日 ~ 2013年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **工ノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 榎本 正昭

【問合せ先】 専務取締役 管理本部長 山崎 宏行

【E-Mail】 [ir@enomoto.co.jp](mailto:ir@enomoto.co.jp)

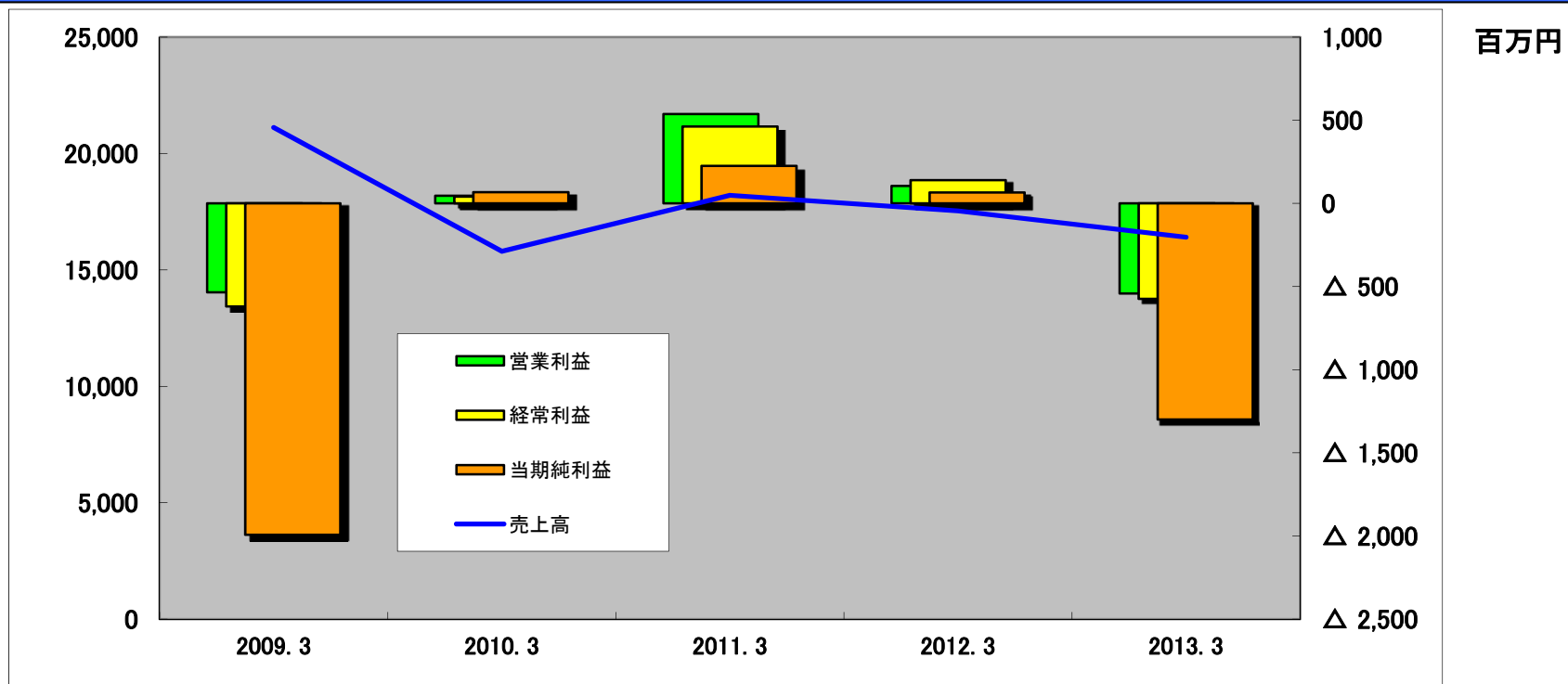
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



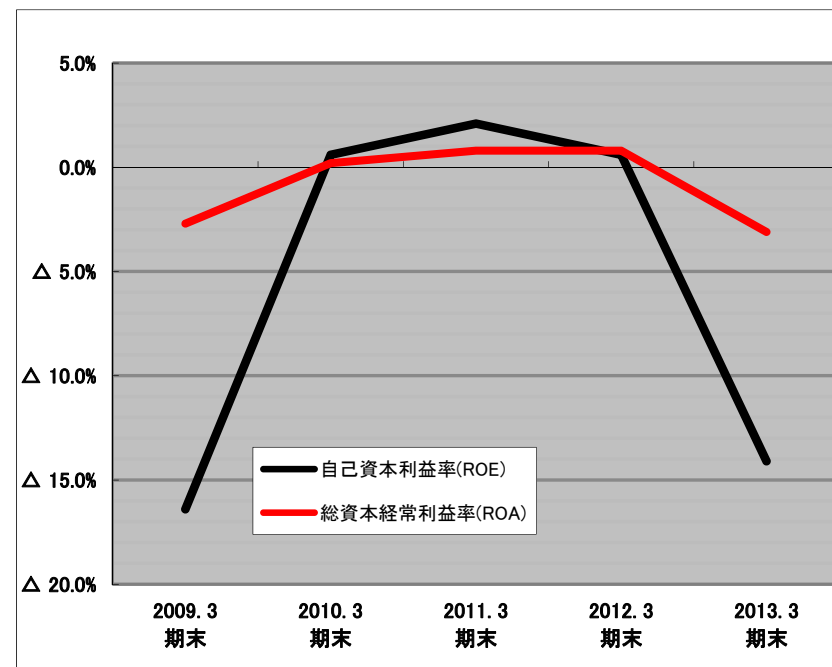
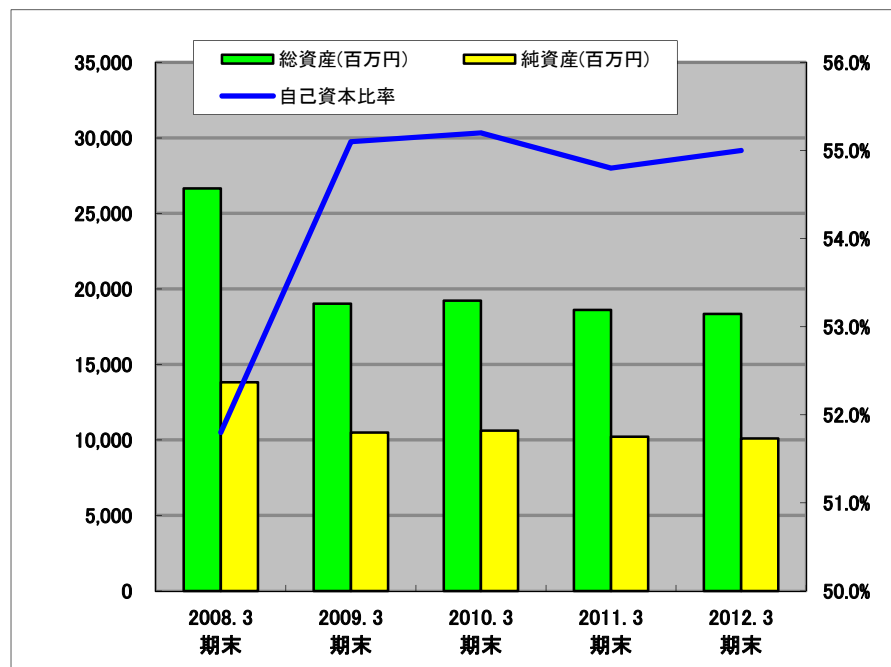
当期のご報告

## ■ 連結業績の推移



	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	前期比
売上高	21,109	15,795	18,204	17,533	16,405	6.4%減
営業利益	△ 535	46	537	105	△ 542	-
営業利益率	-2.5%	0.3%	3.0%	0.6%	-3.3%	3.9P減
経常利益	△ 620	40	462	139	△ 574	-
経常利益率	-2.9%	0.3%	2.5%	0.8%	-3.5%	4.3P減
当期純利益	△ 1,993	67	225	65	△ 1,300	-
当期純利益率	-9.4%	0.4%	1.2%	0.4%	-7.9%	8.3P減

百万円



	2009.3 期末	2010.3 期末	2011.3 期末	2012.3 期末	2013.3 期末
総資産	19,029	19,228	18,608	18,351	18,496
純資産	10,488	10,617	10,211	10,103	9,219
自己資本比率	55.1%	55.2%	54.8%	55.1%	49.8%
自己資本利益率(ROE)	-16.4%	0.6%	2.1%	0.6%	-13.5%
総資本経常利益率(ROA)	-2.7%	0.2%	0.2%	0.8%	-3.1%

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景とした緩やかな景気回復がみられるものの、欧州債務問題の影響による世界経済の減速や、日中関係の悪化等の影響により、先行きへの不透明感は強く、総じて弱含みでの推移となりました。

昨年末以降、新政権の経済政策への期待から円安株高が進行し、閉塞感の続く市場環境にもようやく変化の兆しが見られるようになりました。

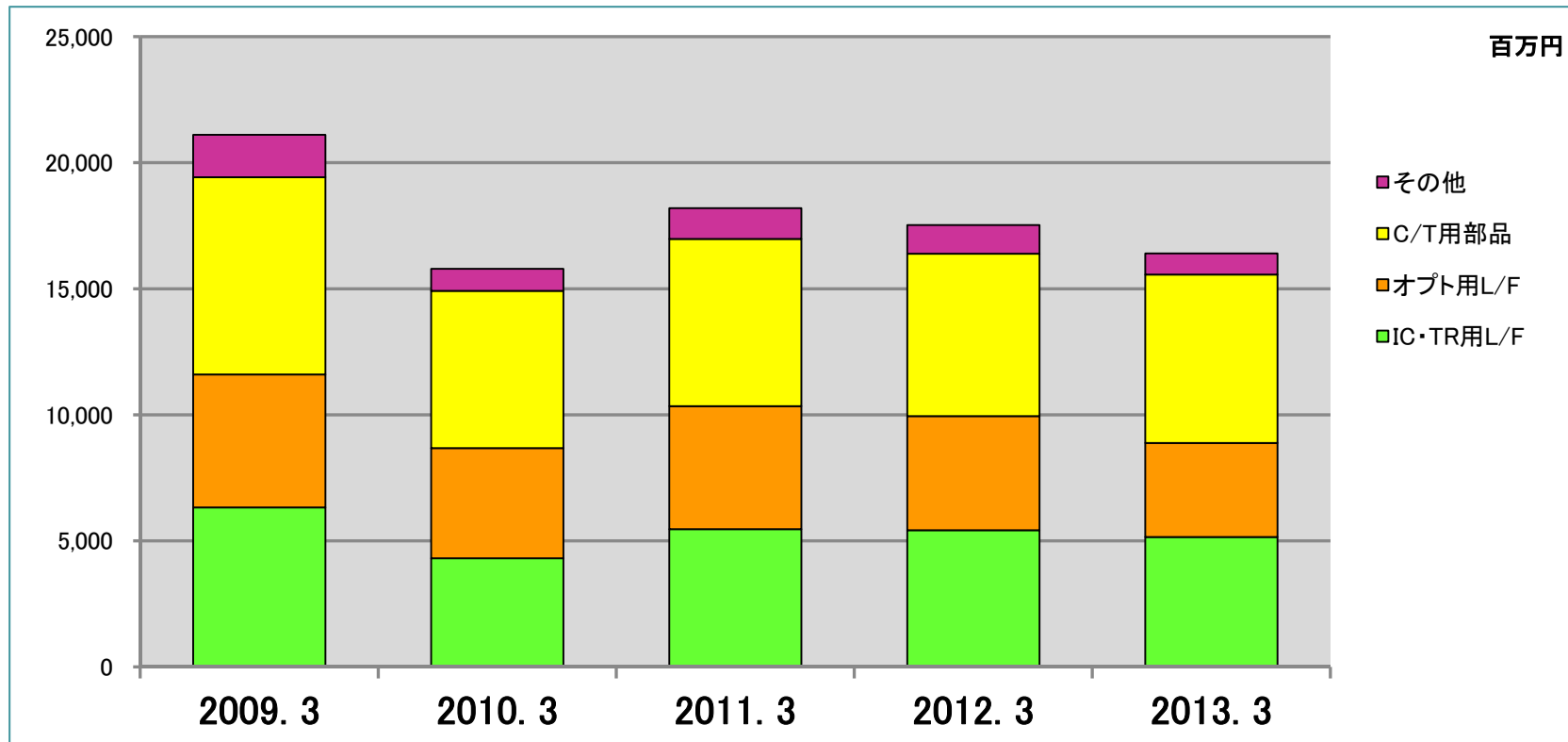
当社グループの主な需要先であります半導体・電子部品業界におきましては、テレビやパソコン市場の需要低迷が長期化していることに加え、市場を牽引してきたスマートフォンやタブレット型端末等のITデジタル分野の需要も、市場の成熟化が進み、競争は一層激化しており、経営環境は予断を許さない状況が続きました。

このような不安定な経営環境下において、当社グループといたしましては、今年度経営重点項目に掲げた「スピードが最大の顧客サービス」といったテーマのもとに、取引先との取引深耕を図り、受注確保に努めて参りました。

しかしながら、中国・台湾メーカー等の台頭により、市場では供給過剰が一層深刻化し、製品価格の下落を加速させる状況となりました。また、第3四半期以降、これまで堅調に推移して参りましたスマートフォン向けのマイクロピッチコネクタが急激な生産調整に入ったことにより売上は伸び悩みました。

その結果、当連結会計年度の売上高は164億5百万円(前年同期比6.4%減)となりました。また、営業損失は5億4千2百万円(前年同期は営業利益1億5百万円)、経常損失は5億7千4百万円(前年同期は経常利益1億3千9百万円)、また、特別損失として減損損失4億5千7百万円を計上したことに加え、子会社ENOMOTO PRECISION ENGINEERING (SINGAPORE) Pte.Ltd.の生産終了にともなう事業整理損9千1百万円等を計上したことにより、当期純損失は13億円(前年同期は当期純利益6千5百万円)となりました。

■製品群別業績(売上高)



	2009. 3	2010. 3	2011. 3	2012. 3	2013. 3	前期比
IC・TR用リードフレーム	6,325	4,311	5,467	5,425	5,151	5.1%減
オプト用リードフレーム	5,277	4,368	4,879	4,522	3,733	17.4%減
コネクタ用部品	7,827	6,243	6,632	6,444	6,683	3.7%増
その他	1,679	871	1,224	1,140	836	26.7%減
合計	21,109	15,795	18,204	17,553	16,405	6.4%減

①IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、車載向け、民生用機器向けが主なものであります。車載用デバイス向けの受注が安定的に受注量を確保している一方で、市場鈍化の影響から、総じて民生用機器向けの電子部品の需要が低迷しております。その結果、当製品群の売上高は51億5千1百万円(前年同期比5.1%減)となりました。

②オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。中国・台湾メーカーを含めた国際市場での競争激化を背景にLEDの供給過剰状態が続いていることから、第2四半期以降主要ユーザーを中心に在庫調整の動きが続いております。その結果、当製品群の売上高は37億3千3百万円(同17.4%減)となりました。

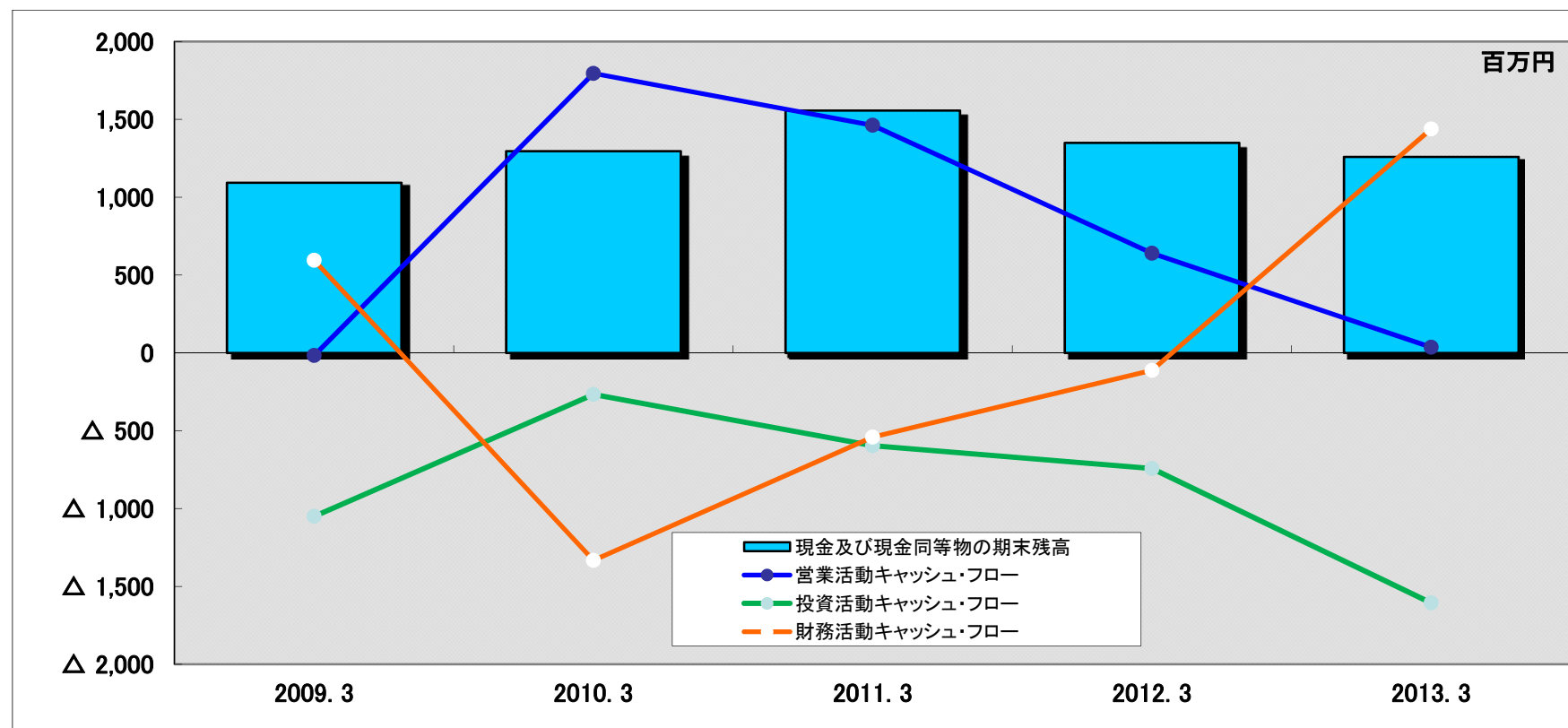
③コネクタ用部品

当製品群は、携帯電話・スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。スマートフォンやタブレット型端末等のアイテムを中心に新興国の新規需要や先進国の買い替え需要が堅調に推移していることから、今上半期にかけてはマイクロピッチコネクタ用部品の受注が増加傾向にありましたが、第3四半期以降は主要ユーザーを中心に、急激な在庫調整の動きがみられ、期待したほどの受注量の確保には至りませんでした。その結果、当製品群の売上高は66億8千3百万円(同3.7%増)となりました。

④その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。当製品群の売上高は8億3千6百万円(同26.7%減)となりました。





	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	前期比
営業活動キャッシュ・フロー	△ 17	1,795	1,462	640	36	△ 604
投資活動キャッシュ・フロー	△ 1,050	△ 267	△ 596	△ 743	△ 1,606	△ 863
財務活動キャッシュ・フロー	595	△ 1,333	△ 541	△ 112	1,438	1,550
現金及び現金同等物の期末残高	1,093	1,296	1,557	1,349	1,259	△ 90

当期における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前期末に比べ8千9百万円減少し、当期末には12億5千9百万円となりました。

当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は3千6百万円(前年同期比94.2%減)となりました。これは主に減価償却費11億2千8百万円の計上による資金の増加、税金等調整前当期純損失11億6千4百万円の計上による資金の減少であります。

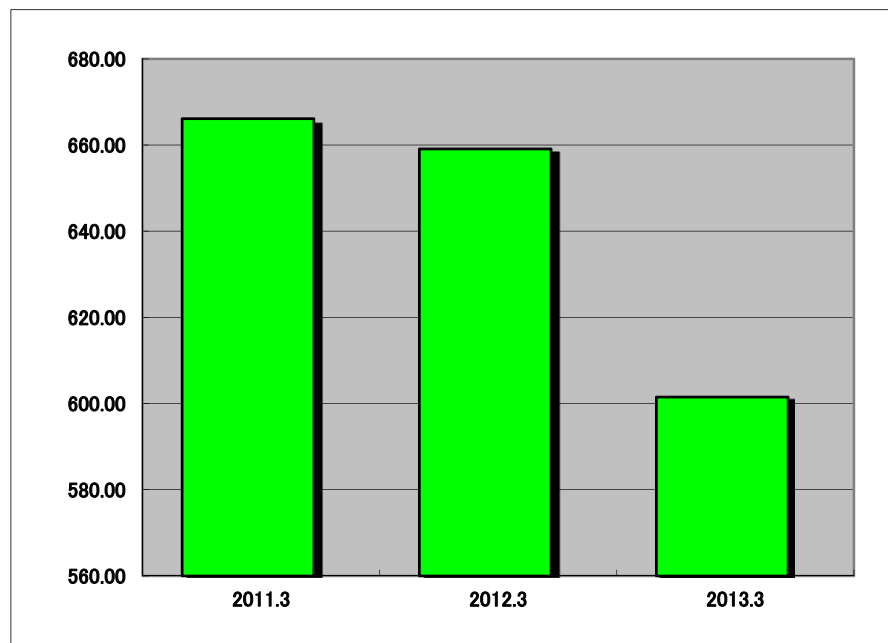
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は16億6百万円(同116.1%増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出14億4千2百万円によるものであります。

➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

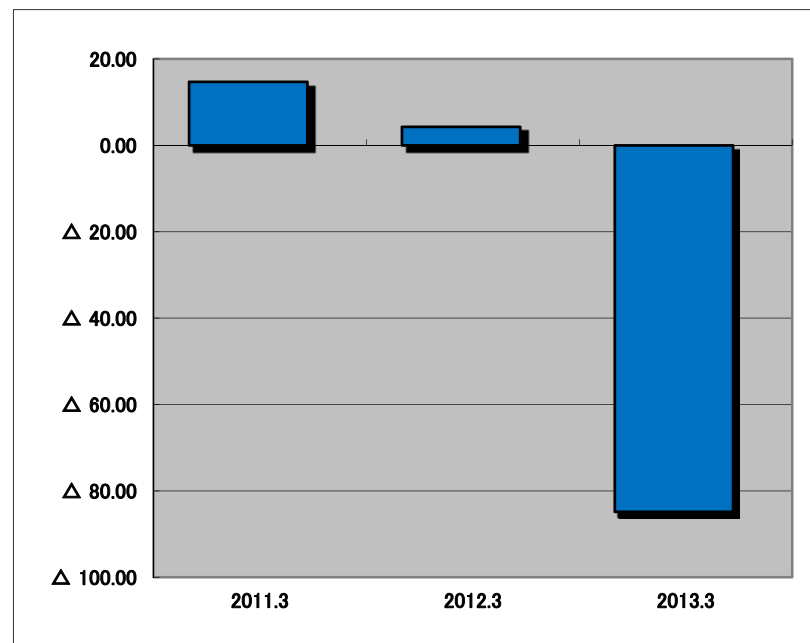
財務活動の結果得られた資金は14億3千8百万円(前年同期は1億1千2百万円の使用)となりました。これは主に借入金の純増額16億1千2百万円による資金の増加、社債の償還1億2千万円、及び配当金の支払い3千万円の資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)

円



	2010. 3	2011. 3	2012. 3	2013. 3	前期比
1株当り純資産(連結)	692.54	666.13	659.12	601.53	8.7%減
1株当り当期純利益(連結)	4.42	14.73	4.29	△84.81	-

## ○配当について

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益配分を安定かつ継続的に実施することを重視し、利益水準や配当性向などを総合的に判断して、適切な利益配分を行っていくことを基本方針としております。

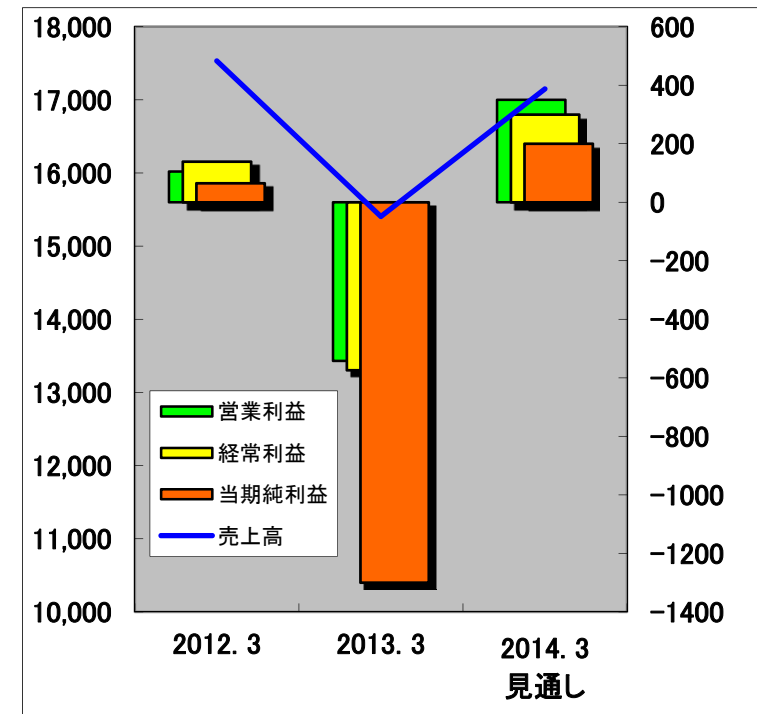
こうした基本方針及び通期業績予想に基づき、配当金につきましては、当期の厳しい業績と配当性向を鑑みて、財務体質の強化を最優先することが適切な経営判断であると考え、誠に遺憾ながら無配(中間配当金0円、期末配当金0円)とさせていただきます。

2014年3月期  
の見通し

● 連結

百万円

	2012. 3	2013. 3	2014. 3 見通し	前期比
売上高	17,533	16,405	17,150	4.5%増
営業利益	105	△542	350	-
営業利益率	0.6%	-3.3%	2.0%	5.3P増
経常利益	139	△574	300	-
経常利益率	0.8%	-3.5%	1.7%	5.2P増
当期純利益	65	△1,300	200	-
当期純利益率	0.4%	-7.9%	1.2%	9.1P増



次期の見通しといたしましては、欧州経済の低迷や中国経済の成長鈍化、また原材料価格の上昇等の懸念材料もありますが、輸出環境の改善や経済対策の効果などを背景に、受注環境は緩やかながら改善するものと見込んでおります。現在、生産調整局面にあるコネクタ用部品につきましては、モバイル市場拡大の中心的アイテムであるスマートフォン及びタブレット型端末向けの需要は、今後も拡大するものと見込んでおります。

また、車載向けデバイス用部品については受注が堅調に推移している一方で、低迷しているLED用リードフレームにつきましては、今後景気回復と同調しながら緩やかに回復していくと予想しております。

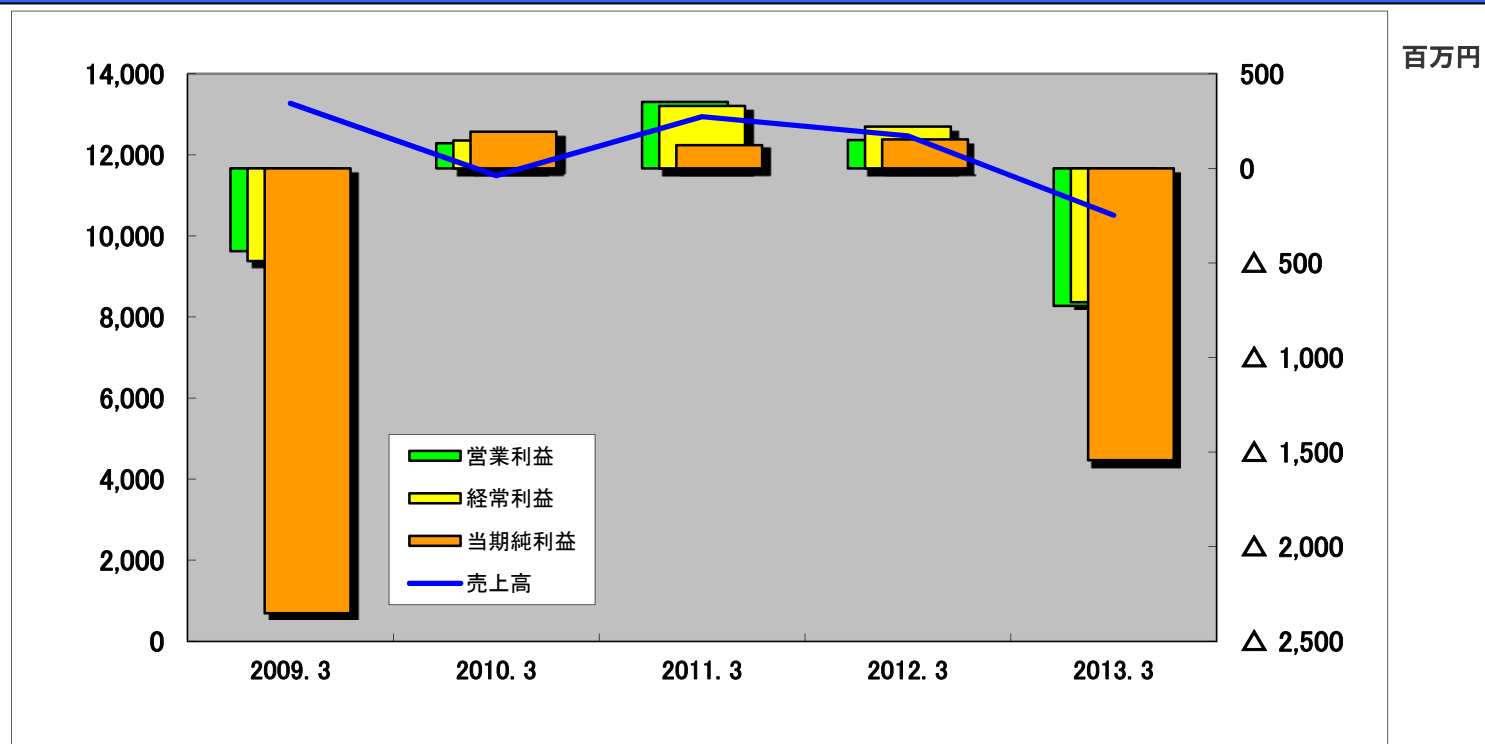
このような環境下、当社グループは品質改善活動や製造コスト低減の推進をはじめ、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースに新規の顧客開拓を積極的に行う等、グループ一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成26年3月期の通期の連結業績予想は、売上高171億5千万円(前年同期比4.5%増)、営業利益3億5千万円、経常利益3億円、当期純利益2億円を見込んでおります。

補足資料



## ■単体の業績推移



	2009. 3	2010. 3	2011. 3	2012. 3	2013. 3	前期比
売上高	13,270	11,490	12,941	12,470	10,509	15.7%減
営業利益	△ 438	133	351	150	△ 727	—
営業利益率	—	1.2%	2.7%	1.2%	—	—
経常利益	△ 490	147	330	221	△ 708	—
経常利益率	—	1.3%	2.6%	1.8%	—	—
当期純利益	△ 2,352	194	123	153	△ 1,543	—
当期純利益率	—	1.7%	1.0%	1.2%	—	—



中期経営方針

経営品質の向上と  
新たな価値の創造

2013年度 経営重点テーマ

“スピード”が  
最大の顧客サービス

- 即断・即決・即実行を心掛けよう
- 合理性を追求し業務の改善を図ろう
- 生産品質の向上に努めよう

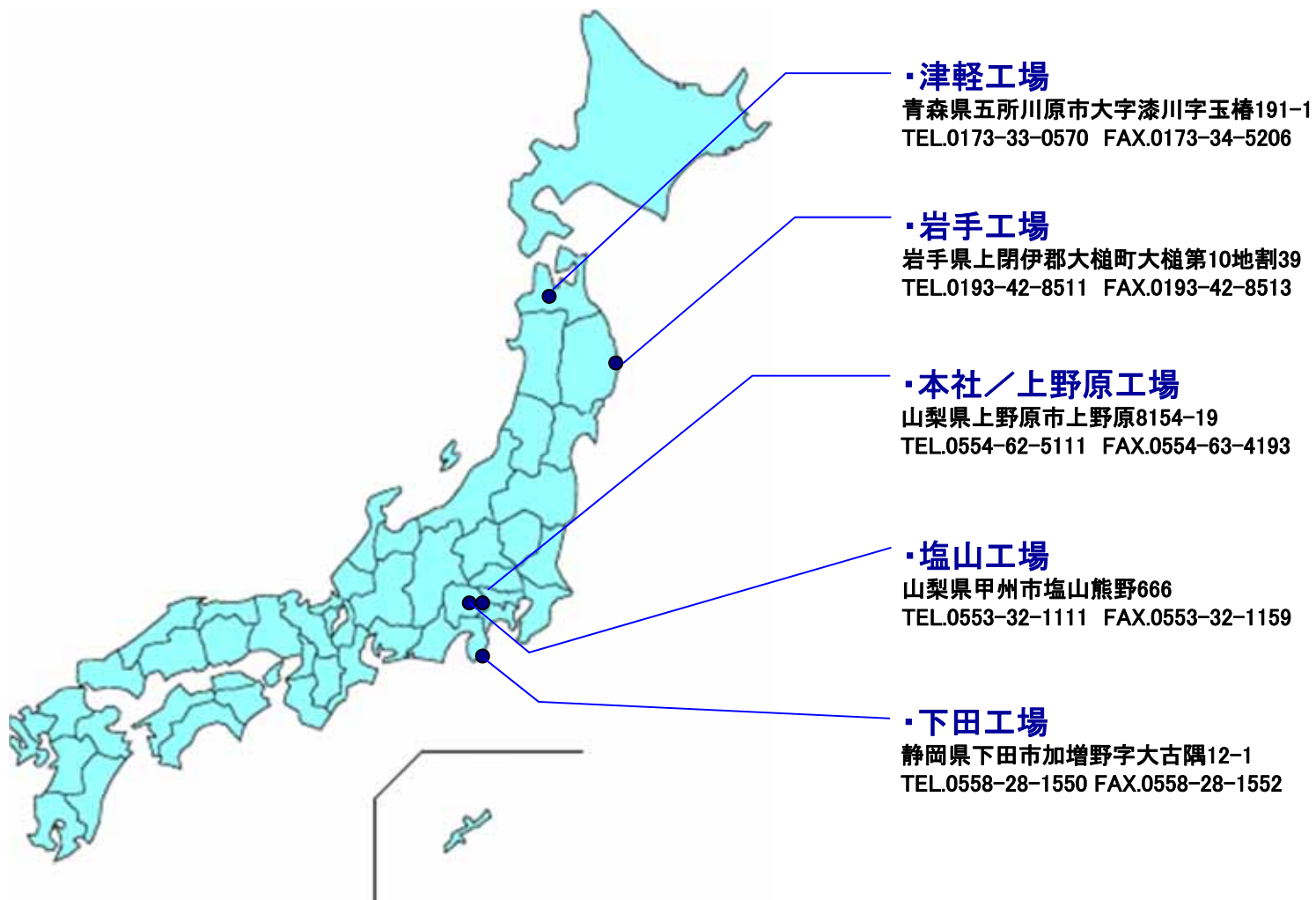
2011年度より5カ年の中期経営方針として『経営品質の向上と新たな価値の創造』を掲げ、今後わが社がグローバルに発展し、【高技術】【高効率】【高収益】の企業グループへ脱皮するための改革を全社レベルで推進しております。

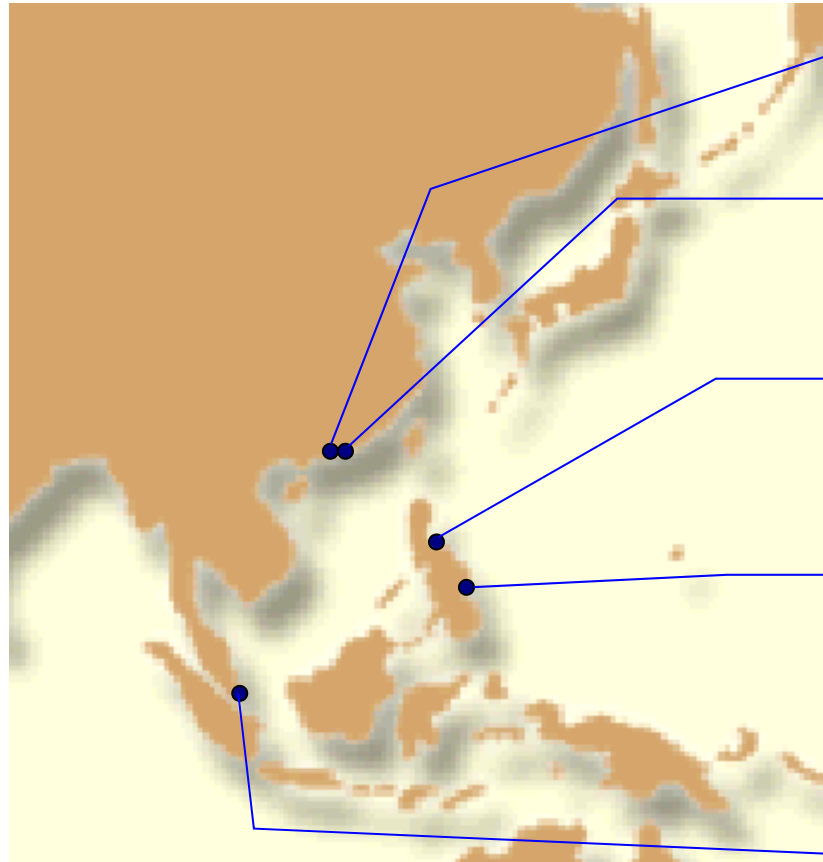


当社グループが対処すべき課題として、中期的な経営方針として掲げた項目の実現のために、特に年度毎に経営重点課題を設定して全社的な取り組みを推進しております。

中期経営方針の3年目にあたる2013年度の経営重点課題としては、前年度に引き続き事業活動の中心となる「経営判断」「顧客対応」「モノ造り」の全ての過程において更なるスピードアップを図ることを掲げ、当社グループの全ての従業員の力を一つにし業績の回復に専念して参ります。







▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**  
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区  
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**  
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室  
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**  
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.  
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**  
**CEBU OPERATIONS**  
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,  
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015  
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

▪ **ENOMOTO PRECISION ENGINEERING(S)Pte.Ltd.**  
30Loyang Drive,Singapore 508945  
TEL.+65-6542-4542 FAX.+65-6542-2484

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

**ENOMOTO Co.,Ltd.**